

## 平成20年度事業報告書

### (概要)

大変厳しい経済情勢の中で、公的助成金も引続き厳しい状況にあるところですが、スポーツ振興基金からは、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008」（和歌山大会）への助成金を例年通りに頂く事が出来た上に、アビームコンサルティング株式会社にも特別協賛を頂き、開催地の和歌山県と和歌山市からの助成も得ることが出来ました。

「第28回日本少年少女オープンヨット大会（東西日本地区大会）」については、東日本地区大会には昨年に引続き「アビームコンサルティング株式会社」の特別協賛を頂くことが出来た上に、山梨県体育協会、山中湖村の助成も頂くことが出来、地元企業3社と「第一三共株式会社」の広告料を頂きましたが、西日本地区大会には「第一三共株式会社」の広告料以外には協賛金、補助金等が全く頂く事が出来ずに、連盟の負担金と参加料のみによる手作りの大会となりましたが、それぞれ成功裡に開催が出来ました。

本年度の競技会事業は下記の通りです。

上記にご説明の東西日本地区大会、全国大会の他に、ジュニアヨット国際親善レガッタを「三起商行株式会社」の協賛を頂いて、「ミキハウスカップ2008」として東京都ヨット連盟との共同主催の形で開催しました。

一方では、再度お願いをしたものの「アサヒ飲料株式会社」からの協賛は頂けないこととなりましたものの、清涼飲料の提供や名称の使用許可は頂くことが出来るというので、規模を縮小してでも、「三ツ矢サイダーカップ」として地方普及大会を開催したいと計画しました。然しながら開催地として相応しい場所、候補が選定出来なかったため本年度は開催を見送りました。

- 1) 第28回日本少年少女オープンヨット大会（東日本地区大会）  
平成20年5月3日(土)～5日(月) 山梨県山中湖村ヨットハーバー
- 2) 第28回日本少年少女オープンヨット大会（西日本地区大会）  
平成20年5月3日(土)～5日(月) 島根県安来市十神「なぎさ公園」
- 3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008  
平成20年8月1日(金)～8月3日(日) 和歌山セーリングセンター
- 4) 第18回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2008）  
平成20年9月7日(日) 東京都若洲ヨット訓練所

第28回日本少年少女オープンヨット大会（東日本、西日本地区大会）は、それぞれ山梨県や島根県の県連や地元ジュニアヨットクラブの皆さんと事前準備を進め、参加クラブの指導者、保護者の皆さんにも競技運営に参加、協力をして頂いて充実した大会を行うことが出来ましたが、(財)日本セーリング連盟が主催する「JOCジュニアオリンピックカップ2008兼JSAFユースセーリングチャンピオンシップ2008」が本年も佐賀県唐津で行われた為に、昨年に続き、西日本地区大会ではシーホッパー級、ミニホッパー級の参加がゼロとなったことが残念でした。又、東日本地区大会も、シーホッパー級、ミニホッパー級は一昨年18艇と12艇、昨年は7艇と6艇、本年は9艇と7艇と減ってきています。

又、同じ時期にOP級の九州大会が開催されたことも影響していると思われます。

全国大会は、和歌山県の和歌山セーリングセンターで、昨年と同じですが、例年よりは1ヶ国多い4ヶ国、韓国、ニュージーランド、オーストラリア、中国を招聘して、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008」として開催しました。

中国チームから、1週間後に広島で行われる全日本OP級チームレース選手権大会に参加するので事前に来日して練習も兼ねて本大会に参加したいとの希望、要請を受けたのでこれを受け入れて当初予定の3ヶ国が4ヶ国となりました。

参加選手も、全国各地からの選手69名に外国チームの21名を加えた総勢90名となり、保護者、指導者、運営役員を含めると約200名の大会となりましたが例年よりは参加者が少ない大会でした。

これは、1週間前に同じ和歌山セーリングセンターで、JSAFと地元の共同主催でのJOCジュニアオリンピックカップ兼JSAFジュニアユースセーリングチャンピオンシップ・U-12セーリングチャンピオンシップと全日本OP級ヨットオープン選手権大会が開催され、JSAF共同主催の大会は国の補助金を受けている為にその参加料が安く、又夏休みとはいえ連続2週間の遠征となることから選手のみならず保護者への負担が大きく、参加選手が分散したものの思われます。

又、同時期に福岡でOP級の福岡ジュニアヨット選手権大会が開催された為に、九州水域からの参加がゼロとなりました。

地元和歌山ジュニアヨットクラブ、和歌山県連とも協力して2週間に亘って参加する選手に対する負担軽減策やその間の期間にセーリングクリニックを無料開催する等、又JSAFの協力も得て、大会直後の北京オリンピック470級出場選手近藤愛・鎌田奈緒子のサインプリントTシャツを参加賞とするアイデアや、2週続けて出場の選手にはアテネオリンピック銅メダリスト関一人選手の直筆サイン入りTシャツ贈呈などのアイデアで極力選手増加策を考えました。

クラブ対抗は、参加選手の多い江ノ島ジュニアヨットクラブが一昨年、昨年に続いて連続優勝し、山中湖中学校ヨット部が2位、地元和歌山ジュニアヨットクラブが3位となったように、やはり参加選手数の多いクラブが上位となりました。

本年度は外国チームも個人戦の他に、チーム対抗を行いました。ニュージーランド、中国、オーストラリア、韓国の順番となりました。

国内選手、チーム同士の交流・懇親の他に国際交流も含め、ジュニアセーラーの日頃の成果や指導者の情報交換の場として有意義な大会になったと考えています。

「ユースセーリング」につきましては、9月末に第77号を発行し、年度末の3月に第78号を発行しました。新しい編集方針で、各クラブを訪問取材する等その内容、企画も充実してきました。

#### (部門別詳細)

#### 1. 総務関係部門

##### (1) 会員開発と加盟促進 (総務委員会／普及渉外委員会／財務委員会)

(イ) 新たに1クラブが加盟し、3クラブが退会となり、現在活動中の加盟クラブの代表者である正会員は64名となっています。(休会12クラブ)

(平成21年6月17日現在)

(新加盟クラブ) 山梨県セーリング連盟ジュニア

(退会クラブ) 札幌ジュニアヨットクラブ、逗子ジュニアヨットクラブ、伊東ジュニアヨットクラブ

クラブの代表者以外の正会員は、理事14名、監事2名、その他2名の18名となり、上記加盟クラブ代表者の正会員と合わせて総計82名となっています。

(平成21年6月18日現在)

(ロ) 賛助会員については、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」、「アサヒ飲料株式会社」から引続きご支援頂いていますが、その後は新しい賛助会員はお願い出来ていません

(2) 地方水域担当理事の活動 (総務委員会／普及渉外委員会)

地方水域担当理事(東:小松勇一理事 西:内藤武夫理事)は、引き続き定例理事会、総会への出席や全国大会、東西日本地区大会等の競技運営への参画を中心として活動しています。

2. 指導員養成部門 (指導育成委員会)

(1) 本年度は、新たな公認指導員が7名認定されましたが準指導員の申請は無く、更新した公認指導員は16名、準指導員の更新者はなく、平成20年3月31日現在の公認指導員は142名、準指導員は7名が登録されています。

(2) 指導者研修会を平成21年2月21日の通常総会時に開催しました。

3. 普及と広報活動部門

(1) 普及・振興活動 (普及渉外委員会)

今年度も、アサヒ飲料株式会社より地域普及大会に対する協賛金のご支援を頂く事は出来ませんでした。清涼飲料と「三ツ矢サイダーカップ」の名称の使用許可を頂けるということで、地域普及事業として小規模でも、連盟からの補助金と運営資機材、清涼飲料を提供して、2ヶ所程度開催したいと企画しましたが、相応しい場所とクラブ等がなく開催を見送りました。

(2) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動 (広報委員会／普及渉外委員会)

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008」については和歌山県、和歌山県教育委員会、和歌山市等に対し、当連盟の活動への理解をお願いし、NPO和歌山セーリングセンターのご支援も頂き、和歌山県、和歌山市、和歌山県セーリング連盟、和歌山ジュニアヨットクラブ、NPO法人和歌山セーリングセンター等との共同主催で、和歌浦湾において開催が出来ました。

(3) B & G財団との協調活動 (普及渉外委員会)

B & G財団に対し、その傘下海洋クラブの東西日本地区大会、全国大会その他当連盟の関与する大会への参加の呼びかけをして頂くように継続的に働きかけながら、協力関係の強化に努めました。

(4) 機関誌等の発行 (広報委員会)

昨年9月にユースセーリング77号を発行、本年3月に78号を発行しました。各地のクラブを訪問取材する等、企画、記事等刷新した内容で定期発行の体制が整いました。各大会に参加してレースの状況や子供たちの交流の様子の写真等も沢山撮り掲載するよう努力しました。

連盟ホームページも少しずつ充実して、連盟からの情報提供(大会の案内・実施要項・報告書・成績表・写真、連盟の事業計画・報告、収支予算書・収支計算書その他)などもタイミング良く発信出来るようになりました。

今後は各クラブからのご意見、情報なども掲載して行きたいと思っておりますので事務局までご連絡下さい。

(5) 競技会の開催（競技委員会）

(イ) 第28回日本少年少女オープンヨット大会(東日本地区大会)を、5月3～5日に山梨県山中湖ヨットハーバーを会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、山梨県、山中湖村、(財)日本セーリング連盟、山梨県セーリング連盟その他のご後援、ご協力を頂き、山梨県セーリング連盟ジュニア山中湖中学校ヨット部との共同主催で開催しました。

参加クラブ 17チーム、参加選手 115名（指導者・保護者・役員110名）

(ロ) 第28回日本少年少女オープンヨット大会(西日本地区大会)を、5月3～5日に島根県安来市十神なぎさ公園を会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、島根県、(財)日本セーリング連盟等のご後援を頂き、島根県ヨット連盟、隠岐ジュニアヨットクラブ、安来ジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 6チーム、参加選手 31名（指導者・保護者・役員120名）

(ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008を8月1日～3日に、和歌山県和歌浦湾を会場に、文部科学省、国土交通省、(財)日本セーリング連盟等多くのご後援のもとに、文部科学大臣杯、国土交通大臣杯の他に、招待外国チームの優秀チームと優秀選手への特別協賛賞アビームカップを頂いて、和歌山県、和歌山市、和歌山県セーリング連盟、NPO法人和歌山セーリングセンターとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 27チーム（韓国、ニュージーランド、オーストラリア、中国の4チームを含む）

参加選手 90名(内 外国選手 21名)（指導者・保護者・役員200名）

(ニ) 第18回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2008)を、9月7日に東京都若洲ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 12チーム 参加選手 63名(内 ドイツ、フランス、韓国から4名に保護者8名)（指導者・保護者・役員140名）

(6) 諸外国との親善交流（普及渉外委員会）

(イ) 8月1日(金)～3日(日)、和歌山県和歌浦湾で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008に、韓国、ニュージーランド、オーストラリア、中国の4ヶ国から合計21名の選手と9名の指導者を招待しました。

(ロ) 9月7日(日)、東京都若洲ヨット訓練所で開催の第18回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2008)に4名の外国選手と8名の保護者の参加を得ました。

(ハ) 11月8日(土)～9日(日)、東京都若洲ヨット訓練所で行われた東京都・ソウル市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースを後援しました。

(7) ジュニアヨットクラブの安全対策事業（指導育成委員会／普及渉外委員会）

平成21年2月21日開催の指導者研修会の機会に、安全関係も含め講習しました。

以上